



酔仙酒造株式会社 取締役・杜氏

こんの やすあき

金野 泰明さん



金野泰明さん(小友町・50才)は、酔仙酒造株式会社で造り手の最高位である杜氏として働いています。登記上の本社の所在地は、現在も震災前と同じ陸前高田市。移転先の大船渡工場で働く金野さんは「発酵は理屈として分かっている部分は良いが、分からないこともある」と謙虚に仕事の奥深さを追求しています。仕事や陸前高田市への夢などを伺いました。

「お酒は、ものづくり」と高校時代に思い立った私は、東京農業大学へ進み、醸造を学びました。

その後、関東の酒蔵で8年勤め、平成19年秋から酔仙に入社しました。現在は、醸造計画を立て、いつ、何を、どのようにつくるかを働く人たちに伝えることが私の仕事です。そして、米の出来具合や天候などにより、もろみをコントロールするための指示を出して酒造りをしています。

もろみの中では色々な反応が起きていて、分からないこともあります。でも、現代の学問で発酵の理屈が解明されてくると、先人たちの言葉としっかり噛み合う瞬間があります。また、個人の勘とコツで造るのではなく、現状を正確に判断して進めていくことが現場では重要です。

一番大変だったのは大震災。千厩の蔵をお借りし、社を代表する「雪っこ」にみんなで取り組みました。復興にがんばったすべての人がそうだったと思いますが、当時はあまりにも目まぐるしく、その記憶は断片的です。

一番嬉しいのは、「おいしい」と言葉をもたらした時です。杜氏となってからは気になるもろみの手

入れなどに追われ、高田の飲食店に顔を出せないのが残念です。

教育委員会の出前授業で市内中学校に出かけしています。こどもたちに、お酒にこだわらず発酵のことをもっと伝えていきたいと思っています。

議会へのひとこと

地域の企業は魅力的でなければと思っています。施策はいろいろあると思いますが、企業と一緒にあって、まちに人が残るようにがんばってほしい。



杜氏として手がけた製品が数々の賞を受賞

あとがき



昔日、本市の災害FMでラジオ番組を担当しており、なんの因果か大船渡のFMねまらいんでもマイクを前にしたことがある。都合5年ほどパーソナリティというモノを務めた。

その際、一番不安だったことは「果たして、こんな放送を聴いている人がいるのだろうか」ということ。それゆえハガキ、FAX、メール、生放送と、あらゆる双方向を模索した。

「聴こえてますか?」とそりや、ラジオで言うても、聴いてる人しかわからない。聴いてる人は、嬉々として「聴こえてるよ!」と応答してくれる、かもしれない。しかし、これで終わっちゃいけない。聴いてない人にどう声を伝えるか。ココが一番大事だと思って捲し立てていた。

「議会だより」皆さん読んでくれていますか? 今年の秋も、10月24と25日の産業まつり、市議会ブースで心よりお待ちしております。私は席を外しているかもしれませんが、あしからず…。(秀)

議会だより編集小委員会

委員長	福田 利喜
副委員長	大和田 加代子
委員	佐々木 良麻
同	菅野 秀一郎
同	伊勢 純
同	佐々木 一義